

麻疹対応についての一般市民向け Q&A (2019年4月9日)

藤沢市保健所保健予防課

■麻疹について

問1 麻疹の感染力について (国立感染症Q & Aより)

麻疹とは麻疹ウイルスによっておこる感染症で、人から人へ感染します。感染経路は空気(飛沫核)感染によるものです。

麻疹ウイルスの感染後、10~12日間の潜伏期ののち発熱や咳などの症状で発症します。38℃前後の発熱が2~4日間続き、倦怠感(小児では不機嫌)があり、上気道炎症状(咳、鼻みず、くしゃみなど)と結膜炎症状(結膜充血、目やに、光をまぶしく感じるなど)が現れて次第に強くなります。乳幼児では消化器症状として、下痢、腹痛を伴うことも多くみられます。

その後、体温は1℃程度下がり、その後半日くらいのうちに、再び高熱(多くは39℃以上)が出るとともに、発疹が出現します。発疹は耳後部、頸部、前額部から出始め、翌日には、顔面、体幹部、上腕におよび、2日後には四肢末端にまでおよびます。

麻疹ウイルスの直系は100~250nmであり、飛沫核の状態在空中を浮遊し、それを吸い込むことで感染しますので、マスクでの予防は難しくなります。唯一の予防方法は、ワクチン接種によって麻疹に対する免疫をあらかじめ獲得しておくことです。

問2 麻疹の感染力について (国立感染症Q & Aより)

感染力はきわめて強く、麻疹の免疫がない集団に1人の発症者がいたとすると、12~14人の人が感染するとされています。(インフルエンザでは1~2人)。

不顕性感染(感染はしても発症しない=症状がでない)はほとんどなく、感染した90%以上の方が発症します。

感染力が最も強いのは発疹出現前のカタル期

問3 合併症について (国立感染症Q & Aより)

麻疹に伴ってさまざまな合併症がみられ、全体では30%にも達するとされています。その約半数が肺炎で、頻度は低いものの脳炎の合併例もあり、特にこの二つの合併症は麻疹による二大死因となり、注意が必要です。

問4 修飾麻疹とはどんなものですか (国立感染症Q & Aより)

麻しんに対する免疫は持っているけれども不十分な人が麻しんウイルスに感染した場合、軽症で非典型的な麻しんを発症する。

問5 熱があるが、麻しんか？

症状のみで判断はできません。医療機関へ電話連絡の上、受診してください。

問6 熱が無くて、咳だけから、麻しんではないと判断していいか？

今のところ、熱がなければ麻しんではないと判断されて結構ですが、熱が出ないかどうかの健康観察は継続して下さい。咳がおさまれば、早めのワクチン接種をお勧めします。（妊婦と妊娠の可能性のある女性は接種禁忌。接種後2ヶ月の避妊が必要。）

問7 どのように受診したら良いか？

医療機関に、事前に電話連絡をして受診方法を確認し、公共交通機関は避けて受診してください。

問8 妊婦ですが、麻しんの流行が心配です。

妊娠中に麻しんにかかると流産や早産を起こす可能性があります。

妊娠前であれば未接種・未罹患の場合、ワクチン接種を受けることを積極的に検討すべきですが、既に妊娠しているのであればワクチン接種を受けることが出来ませんので、麻しん流行時には外出を避け、人込みに近づかないようにするなどの注意が必要です。

また、麻しん流行時に、同居者に麻しんにかかる可能性の高い方（例えば麻しんワクチンの2回接種を完了していない者で、医療従事者や教育関係者など麻しんウイルスに曝される可能性が高い者など）がおられる場合はワクチン接種等の対応について、かかりつけの医師にご相談ください。

（問8の回答は、厚労省Q & Aより引用）

問9 いつになったら安心していい時期か？今回の麻しん発生の終息はいつか？いつまで健康観察を続けるのか？

当面、安心できません。

3週間の健康観察を保健所ではお願いしています。発熱している方がいる場合は延長することがあります。

■予防接種、その他について

問1 定期接種対象について

I 期：1 歳の誕生日～2 歳の誕生日前日

II 期：就学前1 年間

問2 どこで、任意のMRワクチンを接種できるか。いくらか。

別紙、「麻しん、風しん予防接種実施医療機関」一覧表参照。

自費診療となるので、病院によって異なりますが、7 千円～1 万円。(妊婦と妊娠の可能性のある方は禁忌。接種後2 ヶ月の避妊が必要。)

問3 生後6 ヶ月未満の乳児でも接種可能ですか。

一般に生後6 ヶ月未満の乳児は、移行抗体(胎盤を通じて胎児に与えられた抗体)があるとされています。しかし、麻しん患者との接触があり、感染症発症のリスクの方が上回る場合は、かかりつけ医の判断により、緊急MRワクチンを接種する場合があります。

問4 II 期接種前の年齢(2 歳～5 歳)ですが、予防接種を受けても大丈夫ですか。

接種は可能ですが、任意(全額自己負担)での接種となります。

※II 期接種対象者：5 歳～7 歳未満で小学校就学前1 年間(就学前年度4/1～3/31)

問5 I 期、II 期どちらも接種していない場合、これから2 回接種してもいいですか。その場合、接種の間隔はどうなりますか。

できるだけ、早く予防接種を受けることが重要です。

流行時は、2 回目の接種時期は1 回目接種後より1 ヶ月間隔を開けて接種することが可能です。麻しん流行が終息した時には、1 回目から数年の間隔を開けて接種したほうが、より麻しんの免疫ができる割合が高まり、感染予防に効果があがります。

問6 I 期は未接種、II 期は接種済です。1 回しか接種していないので、あと1 回接種したいのですが、接種可能ですか。接種する場合、II 期接種後からのくらいの間隔で接種したほうがいいですか。

接種は可能ですが、あと1 回の接種は任意接種(全額自己負担)になります。

接種の間隔は、1 ヶ月以上の間隔を開ければ接種可能です。

問7 予防接種後、どのくらいで抗体がつかますか。

ワクチン接種後、血中抗体は2週間から出現するといわれています。

問8 麻しんの予防接種は、必ず2回接種しないといけないのですか。

2回の接種を受けることで、1回の接種では十分に免疫がつかない方もいるため、2回の接種が必要です。また、接種後、時間の経過とともにその免疫が低下してきた人に対して、2回目の接種で免疫をより増強させる効果があります。

問9 予防接種は何回まで接種していいのですか。

基本は2回ですが、仮に3回以上接種しても、問題はありません。抗体価がさらに上がり感染予防には効果が上がるとされています。

問10 妊娠中、妊娠の可能性があります。予防接種を受けることができますか。

妊娠中、または妊娠の可能性がある方へは、予防接種はできません。不要不急の外出を控え、人込みをできるだけ避けるようにしてください。

問11 熱があります。どうしたらいいですか。

麻しんは、風邪症状（発熱、咳）と似たような症状がありますが、発熱だけでは麻しんとは判断できません。38℃前後の発熱が2～4日続き、倦怠感、上気道炎症状（咳、鼻みず、くしゃみ）、結膜炎症状（結膜充血、目やに、光をまぶしく感じるなど）が現れ、その後、再び高熱（39℃以上）とともに発疹が出現します。

熱が出た場合には、学校や会社への登校、出勤を控え、自宅で休養を取ってください。症状が悪化した場合には、医療機関を受診してください。

問12 麻しんにかかったことがあるかもしれません。予防接種をしたほうがいいですか。

麻しんにかかったことがある場合には、成人になっても十分な抗体を保持していることが多いため、麻しんの予防接種は必要ありません。

はっきりわからず、抗体があるか確認をしたい場合、抗体検査（全額自己負担）で確認をすることができます。

抗体があれば接種不要、抗体がなければ予防接種を受けることをお勧めします。

問13 麻しんにかかったかどうかわかりません。予防接種履歴もわかりません。どうしたらいいですか。

抗体検査で確認をするか、もしくは、抗体検査を受けずに予防接種をされても構いません。ただし、任意接種（全額自己負担）になります。

問14 予防接種の副反応はあるのか。

1回目のワクチン接種後の反応として最も多く見られるのは発熱です。接種後1週間前後に最も頻度が高いですが、接種して2週間以内に発熱を認める人が約13%います。その他には、接種後1週間前後に発疹を認める人が数%います。アレルギー反応としてじんま疹を認めた人が約3%、また発熱に伴うけいれんが約0.3%見られます。

（厚労省麻しんQ&Aより抜粋）